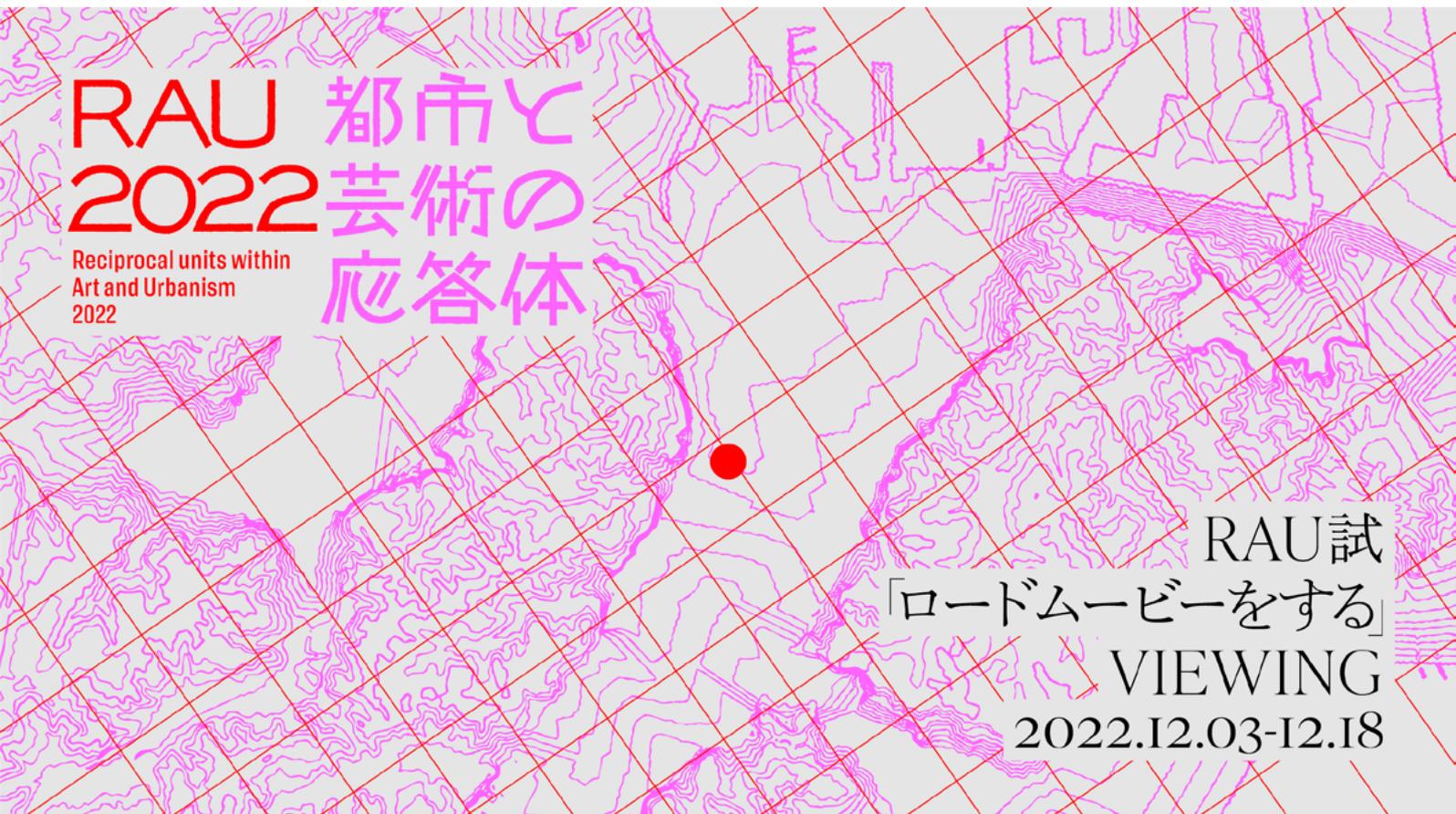


2022年11月18日

平素より大変お世話になっております。

横浜国立大学「都市と芸術の応答体2022」が横浜国際舞台芸術ミーティングYPAMフリンジ2022に参加するため、ニュースリリースを送付致します。貴媒体にてご取材、情報掲載などご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

お問合せ：山本さくら（広報）rau.ynu@gmail.com



令和4年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業

都市空間に創造的に応答していく視点を持ったアートマネジメント人材育成プログラム

横浜国立大学「都市と芸術の応答体2022」 展覧会と関連上映のご案内

2022年12月3日-18日

横浜国際舞台芸術ミーティングYPAMフリンジ2022内で

短編映像の展示と、

横浜をめぐるインストラクションつきツアーからなる展覧会を開催。

「シネマ・ジャック&ベティ」にて

映画監督・三宅唱の過去作とRAUメンバーの作品上映も同時開催。

概要

横浜国立大学主催のプログラム「RAU（都市と芸術の応答体）」は、都市の有形・無形の応答によって生まれる芸術の在り様を、理論と実践の両面から探求するラーニングコレクティブです。

本プログラムは3年目を迎え、藤原徹平（建築家）と平倉圭（美学・芸術学者）の共同ディレクションのもと、国内外から参加するメンバーとゲストアーティストの三宅唱（映画監督）が共同試行と議論を積み重ねてきました。

今年度の活動テーマは、「土木と詩／土地と身体／ロードムービー」です。

人間と土地が重ねて来た時間を巡る物語としての「ロードムービー」を、映像として物質化することを試みます。

今回、RAUの思考と実践を「ロードムービーをする」と題し、映像作品の上映とフィールドツアーの複合した展覧会として発表します。

山本アパート（横浜市・黄金町）では、都市との応答によって生まれた映像群を暗室でのスクリーニング、紙媒体も交えた鑑賞、会期中オンゴーイングの展示も交えて体験できます。横浜の土地の物語を巡るフィールドツアーでは、RAUの土地への向き合い方を身体的に経験することができます。会期中、RAUメンバーによるガイド付きビューイング&フィールドツアーも併せて実施いたします。

さらに関連企画として、黄金町の映画館シネマ・ジャック&ベティにて「土地の身振り：RAU短編作品+三宅唱特集」の上映を実施。2022年12月16日から公開の『ケイコ 目を澄ませて』に先駆け、三宅唱監督による過去作品とRAUメンバーによる短編作品を併せて上映いたします。RAUの議論の観点からも三宅作品の新たな魅力を再発見する機会となります。

プログラムの内容

1 ビューイング

RAUで生まれた「ロードムービー」の映像作品を中心に、2020年度から2022年度のRAUの精選された作品を上映します。会期中、RAUメンバーのガイドで展示されている映像をいくつか取り上げ、議論をする時間をつくります。



2 フィールドツアー

横浜という都市を土地から理解するフィールドツアーを用意しました。フィールドツアーは来場者が自由に実施することができます。来場者はインストラクション付きのMAPを携えて、ルートに沿って土地を歩き、観察し、撮影します。

RAUの思考をより深く、身体で経験するツアーです。

また週末には、要予約のガイド付きビューイング&フィールドツアーをおこないます。



詳細

タイトル RAU試「ロードムービーをする」VIEWING

日程 展示
2022年 12月3日(土) - 12月18日(日)
10:00 - 19:00

会場 山本アパート(黄金町)
〒231-0053 神奈川県横浜市中区初音町2丁目43

イベント **ガイド付きビューイング**
下記定刻より、展示されている映像を、RAUメンバーのガイドで鑑賞し、議論します。
各回約30分間
平日 11:00 / 14:00 / 17:00
土日 11:00 / 17:00

ガイド付きビューイング & フィールドツアー (要予約)

下記定刻より、RAUメンバーのガイドつきでビューイングおよびフィールドツアーを実施します。

12月4日(日) 13:00 - 14:30
12月10日(土) 13:00 - 14:30
12月17日(土) 13:00 - 16:30(予定)
12月18日(日) 13:00 - 14:30

予約はこちらから

※予約時、YPAM オーディエンスアカウントを作成する必要があります。あらかじめご了承ください。

<https://ypam.jp/programs/fr108>



参加費 無料

関連企画

「土地の身振り：RAU 短編作品+三宅唱特集」

〈RAU 試 「ロードムービーをする」 VIEWING〉の関連企画として、RAUの短編作品と三宅唱の過去作を上映します。複数作品を連続で観ることで生まれる思考を、作品と併せてお楽しみください。

スケジュール

12/4 日 19:50- 21:30	12/5 月 19:50- 21:30	12/6 火 19:50- 21:30	12/7 水 19:50- 21:30	12/8 木 19:50- 21:40	12/9 金 19:50- 21:40	12/10 土 19:10- 21:00
---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------------

RAU 1

RAU 2

12/11 日 -	12/12 月 19:10- 20:30	12/13 火 19:10- 21:30	12/14 水 19:10- 21:30	12/15 木 19:10- 21:40	12/16 金 19:10- 21:20	12/17 土 19:10- 21:20
--------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

休映

RAU 3

RAU 4

RAU 5

RAU 6

12/18 日 19:10- 21:20

RAU 6

上映スケジュールは予告なく変更となる場合がございます。
最新情報はジャック&ベティ公式HPをご覧ください。

会場

シネマ・ジャック&ベティ

〒231-0056 神奈川県横浜市中区若葉町3-51

チケット情報

一般1500円 / シニア1200円 / 学生・障がい者1000円

※購入はジャック&ベティwebより

<https://onl.tw/k2REjYc>

プログラム内容

RAU1 建築物、室内、よって立つ土地。
そこに居るという関わりを書き換えていく身体的／言語的運動を捉えた映像群。



1

荒田幸広
『隅田川』(2021) 3分
©RAU



2

津久井南帆
『大間木三丁目』(2020) 3分
©RAU



3

遠藤七海
『となりの高橋さん』(2021) 3分
©RAU



4

佃七緒
『辻をはらむ』(2022) 13分
©RAU



5

三宅唱
『土手』(2021) 5分
©miyakesho



6

三宅唱
『THE COCKPIT』(2014) 64分
©pigdom, miyakesho

RAU2 土地を移動することが物語を生む。
人の移動と時を超えた集団性の重なりが形作った「道」から、人の姿を見直す作品群。



1

Yukiho Itadani
『Stien Og Fyret』(2020) 5分
©RAU



2

mari takahashi
『ある風景の記録』(2022) 7分
©RAU



3

なかむらまゆ 児崎汐美 若林さち
『風に潜る』(2022) 11分
©RAU



4

三宅唱
『ROAD MOVIE』(2022) 4分
©miyakesho



5

三宅唱
『やくたたず』(2010) 75分
©miyakesho

2022年11月18日

RAU3

土地を移動することが物語を生む。

人の移動と時を超えた集団性の重なりが形作った「道」から、人の姿を見直す作品群。



1

Yukiho Itadani

『Stien Og Fyret』(2020) 5分

©RAU



2

mari takahashi

『ある風景の記録』(2022) 7分

©RAU



3

なかむらまゆ 児崎汐美 若林さち

『風に潜る』(2022) 11分

©RAU



4

三宅唱

『ROAD MOVIE』(2022) 4分

©miyakesho



5

三宅唱

『1999』(1999) 3分

©miyakesho



6

三宅唱

『無言日記2016』(2016) 50分

©miyakesho

RAU4

都市の姿から、折り重なる時間を見出していく。

都市の向こうに控える土地を眼差す作品群。



1

mari takahashi

『Schwedter Steg』(2021) 5分

©RAU



2

たかすかまさゆき

『スイングビル10階』(2021) 3分

©RAU



3

永井雅也

『ルートをつくる』(2022) 20分

©RAU



4

三宅唱

『きみの鳥はうたえる』(2018) 106分

©hakodate cinema iris

2022年11月18日

RAU5

都市の姿から、折り重なる時間を見出していく。
都市の向こうに控える土地を眼差す作品群。



1

mari takahashi

『Schwedter Steg』(2021) 5分

©RAU



2

たかすかまさゆき

『スイングビル10階』(2021) 3分

©RAU



3

永井雅也

『ルートをつくる』(2022) 20分

©RAU



4

三宅唱

『Playback』(2012) 113分

©decade, pigdom

RAU6

ある土地で、こうとしか応えようのない必然を伴う身振り。
見ることから始まる、土地と不可分な身体の在り方を捉えた作品群。



1

キヨスヨネスク 小山薫子

『荒川平井住宅』(2021) 10分

©RAU



2

山縣瑠衣

『運転の練習』(2022) 6分

©RAU



3

たかすかまさゆき 佃七緒

『輪の時間』(2022) 20分

©RAU



4

三宅唱

『ワイルドツアー』(2018) 67分

©miyakesho



5

三宅唱

『長浜』(2016) 18分

©pigdom, miyakesho

クレジット

主催 都市と芸術の応答体2022事務局

企画 都市と芸術の応答体2022事務局、シネマ・ジャック&ベティ

編集協力 (RAU) 合同会社アロポジデ / Alloposidae LLC

RAUとは

都市の有形・無形の応答によって生まれる芸術の在り様を、理論と実践の両面から探求するラーニングコレクティブ。建築家・藤原徹平と芸術学者・平倉圭によって企画され、映画監督・三宅唱を招いたコ・ディレクションによって駆動している。世界中の都市から、美術家、写真家、パフォーマー、演出家、詩人、ダンサー、アートマネジメント実践者、建築家など多様なメンバーが参加。オンラインにも関わらず、濃密な連帯をつくりだしている。

ディレクター 略歴



藤原徹平 FUJIWARA Tepei

建築家 1975年横浜生まれ。横浜国立大学大学院Y-GSA准教授。フジワラテッペイアーキテクツラボ主宰。一般社団法人ドリフターズインターナショナル理事。

横浜国立大学大学院修士課程修了。建築や都市のデザイン、芸術と都市の関係を研究・実践している。主な作品に「クルックフィールズ」、「那須塩原市まちなか交流センター」、「京都市立芸術大学移転設計」、「ヨコハマトリエンナーレ2017会場デザイン」、「リボンアートフェスティバル2017会場デザイン」など。受賞に横浜文化賞 文化・芸術奨励賞 日本建築学会作品選集新人賞など。



平倉圭 HIRAKURA Kei

美学・芸術学者 1977年生まれ。横浜国立大学大学院Y-GSC准教授。

国際基督教大学卒。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了。博士（学際情報学）。芸術の制作プロセスにはたらく物体化された思考を研究している。最近はダンスの研究を少しずつ。著書に『かたちは思考する—芸術制作の分析（東京大学出版会、2019年）、『ゴダールの方法』（インスクリプト、第二回表象文化論学会賞受賞）、『オーバー・ザ・シネマ 映画「超」討議』（共著、フィルムアート社）ほか。

ゲストアーティスト 略歴



三宅唱 MIYAKE Sho

映画監督 1984年北海道生まれ。一橋大学社会学部卒業、映画美学校フィクションコース初等科修了。主な長編映画に『きみの鳥はうたえる』（18）、『THE COCKPIT』（15）など。最新作は『ケイコ 目を澄ませて』（22）。他に鈴木了二との共同監督作『物質試行58：A RETURN OF BRUNO TAUT 2016』（16）やビデオインスタレーション作品として「ワールドツアー」（18/山口情報芸術センター[YCAM]との共作）、「July 32,Sapporo Park」（19/札幌文化芸術交流センターSCARTSとの共作）などを発表している。

主催 国立大学法人 横浜国立大学
 助成 令和4年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業
 事業統括 藤原徹平（建築家 | 横浜国立大学Y-GSA准教授）
 事務局 『都市と芸術の応答体2022』事務局
 住所 〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5建築学棟4階
 メール rau.ynu@gmail.com（担当：染谷・山川）
 HP rau.ynu.com twitter @rau_ynu
 ディレクター 藤原徹平 平倉圭
 プログラムマネージャー 染谷有紀 山川陸
 プレス・広報 山本さくら
 グラフィックデザイン 鈴木哲生

